



ゆらがわ

舞鶴市立由良川小学校

学校だより

10月号

〒624-0955 舞鶴市字丸田74番地

TEL : 0773-82-0013

令和3年9月30日発行

二宮尊徳（金次郎）の名言に学ぶ！

二宮尊徳（金次郎）さんの像は多くの小学校で見ることができます。由良川小学校の玄関前にもあるので皆さんもご存じだと思います。時代の流れから撤去する学校も増えている（薪を背負って読書する姿がながらスマホをイメージさせる。）と聞きますが、江戸時代の農政家である彼の名言には今の時代でも、学ぶべきことがあります。



1 「積小為大（せきしょうだい）」

・・・大事をなさんと欲せば、小さい事を、怠らず勤しむ（いそしむ）べし。小積もりて大となればなり。凡そ小人の常、大なることを欲して、小なる事を怠り（中略）夫れ大は小の積んで大となる事を知らぬ故なり。

（二宮尊徳 「報徳記」より）

☆小さなことの積み重ねと継続の大事さ、そして、その先にこそ大きなことを成せる【=積小為大】という意味です。

2 「心田を耕す」

・・・「あらゆる荒廃は心の荒蕪（こうぶ）から起こる」という言葉にも残したように、人の心の荒蕪、つまり心田を耕すことですべてのものが豊かになると説いています。人の心を田んぼに例えて説いているところが、金次郎さんの心の広さやユニークさを物語っているように思います。

もちろん、大切なポイントとしては、その田んぼ（自分の心）を耕し、美田にするのは、自分自身であること。他人にしてもらったものではないということであり、その前提として、皆が田んぼ（自分の心）を持っているということをちゃんと認識（感謝）すべきということだと思います。

3 「たらいの水」

・・・水を自分のほうに引き寄せようとするとうこうへ逃げてしまうけれども、相手にあげようと押しやれば自分のほうに戻ってくる。だから、人に譲らなければいけない。

☆金次郎さんの七代目子孫の中桐万里子さんが、この話の前段を付加され、さらに深みを持たせた話になっています。

人間は皆 空っぽのたらいのような状態で生まれてくる。

つまり 最初は財産も能力も何も持たずに生まれてくる。

そして、そのたらいに自然やたくさんの人たちが水を満たしてくれる。

その水のありがたさに気付いた人だけが他人にもあげたくなり

誰かに幸せになってほしいと感じて水を相手のほうに押しやろうとする。

そして、幸せというのは、

自分はもう要りませんと他人に譲ってもまた戻ってくるし、

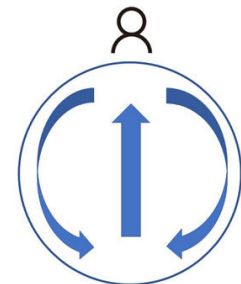
絶対に自分から離れないものだけでも、

その水を自分のものだと考えたり、

水を満たしてもらったことを当たり前と錯覚して

足りない、足りない、もっともっと、と

かき集めるようになると、幸せが逃げていく。「二宮金次郎の幸福論」中桐万里子著 より



まだまだコロナ禍が続く状況ですが、こんな時こそ小さなことを当たり前に積み重ねていくことが大切なのではないでしょうか。10月には修学旅行、秋季大運動会と大きな行事があります。予定されていた日程は変更になりましたが、子どもたちが輝く姿を見せてくれるように職員一同、指導にあたっていきます。

校長 中江 浩二

教職員 一同